

登録団体概要書

(令和7年9月作成)

(ふりがな) 団 体 名		とくていひえいりかつどうほうじんぐりーふさぽーとてらすば 特定非営利活動法人グリーフサポートてらすば		
代表者職・氏名		代表理事 秋山 美智子		
主たる事務所の 所 在 地		〒761-0441 香川県高松市由良町 392 番地 2		
連 絡 先 等		電 話	080-8631-0845	F A X
		e - mail	grief.terasuba@gmail.com	
		ホームページ	https://www.instagram.com/grief.terasuba/	
法人設立年月		令和7年7月	正会員数	15 人
活 動 目 的 (定款に記載された目的)		不妊・不育・流産・死産・人工死産・新生児死等を経験した当事者を対象にグリーフを安心して語り合える場の提供、キャリア支援等を行い、また、医療・福祉・教育等の従事者および一般の人々を対象に、学びや対話の機会を提供し、社会への発信等を通じて、誰もがグリーフを大切に抱えながら生きやすい社会の実現に寄与することを目的とする。		
主たる活動分野		(1)保健、医療又は福祉の増進を図る活動 (2)社会教育の推進を図る活動 (3)人権の擁護又は平和の推進を図る活動 (4)男女共同参画社会の形成の促進を図る活動 (5)子どもの健全育成を図る活動 (6)職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動		
活 動 状 況	主 な 活 動	① グリーフケアの講演・研修 ② 対話等学び事業（グラフィックレコーディング） ③ セルフケア講座の企画・運営 ④ 周産期グリーフサポート事業（不妊・不育・流産・死産・新生児死等の家族の分かち合いの会、個別相談、キャリア支援		
	活 動 地 域	香川県全域		
	活 動 頻 度	毎月／適宜		
	過 去 の 事 業 実 績	① 行政、病院等でのグリーフケアの講演、講師派遣（延べ70件） ② シンポジウムやワークショップ等の対話のサポートとして、グラフィックレコーディングの技術派遣を実施（延べ12件） ③ マインドフルネスや臨床美術等のセルフケア講座の企画・運営（延べ16件） ④ 赤ちゃんを亡くした家族の分かち合いの会を毎月対面及びオンライン開催（延べ150人参加） ※上記事業は、令和3年～任意団体として活動してきた実績を含む		

今後の活動方針	大切な存在との死別や喪失等を経験した当事者が安心してつながり、語り合える場を地域に提供することを中心とし、グリーフに対する社会的理解の促進およびサポート体制の構築を図る。 具体的には、不妊・不育・流産・死産・人工死産・新生児死等の当事者を対象とした分かち合いの会の定期的な開催、医療・福祉・教育等の従事者が抱える喪失体験や心理的負担に関する対話の機会の提供、グリーフに関する研修・講演会等の企画および運営、地域住民を対象としたグリーフに関する啓発イベントやセルフケアに関する企画を開催し、ホームページ等を立ち上げ情報発信の強化に取り組む。 これらの取り組みにより、医療・福祉・教育・行政等の現場におけるグリーフへの理解を広げると共に、死別や喪失を経験した当事者やグリーフに関わる従事者、地域住民が相互に支え合いながら、誰もがグリーフを大切に抱えながら生きやすい社会の実現をめざす。また、法人格の取得を機に、自治体や他団体との連携体制の構築・強化にも努め、継続的かつ実効性のある支援基盤の確立を図る。
県民へのPR	大切な人やものを失ったとき、人は深い悲しみや後悔、外出することができない、眠れない等、様々な心身の反応（グリーフ）を抱えます。そんな時、孤立することなく、誰もが支え合いながら痛みの中から希望を育み、その人なりの一歩を歩み出せるまち・地域を目指しています。 私たちは、専門職だけではなく社会全体で互いに支え合いながらグリーフサポートを届ける「コンパッション・コミュニティ」を本気で作ろうとしています。例えば——病院で支える看護師さんもサポートを届ける一人であり、しんどくてご飯が作れない時に、ご飯を届ける友人もまたグリーフサポートを担う一人。そして、この活動を続ける私たちを支えてくださる人たちも、同じように大切なグリーフサポートを届けていく一人です。 みなさんのご支援は、「地域の中に支えてくれる人がいる」という安心につながります。ともに、やさしさの輪を広げていく一人となっただけだと嬉しいです。

(注1)団体登録された場合、この概要書は、寄附を検討する県民への資料として、公開されます。

(注2)枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

活動状況報告書

(令和7年9月作成)

団体名 特定非営利活動グリーンサポートてらすば

登録要件	登録要件に関する団体の活動状況等
広く県民を対象とするNPO活動を行っていること	令和3年の人口動態統計によれば、妊娠12週以降の死産は全国で16,277件にのぼり、流産も含めると妊婦の約6人に1人が流産・死産等を経験しています。にもかかわらず、社会的理解やサポートは十分とは言えず、声を上げにくいことから「公認されない悲嘆」と言われ、孤立や生きづらさを抱える当事者も少なくありません。 当法人は、こうした状況をふまえ、県内で毎月「分かち合いの会」を開催し、安心して気持ちを語れる場を提供しています。参加者は、東讃・中讃・西讃地域まで広域にわたっています。 また、子どもを亡くすことだけではなく、親や兄弟、パートナーとの死別、介護や自殺予防等、多岐に渡りグリーフの影響があります。そのため、医療従事者や行政職員、市民を対象に研修や講演を行い、グリーフに関する知識の普及に努めています。 啓発企画も定期的実施し、子どもから大人まで誰もが抱える喪失について考え、幅広い県民が参加できる取り組みを展開しています。死別や喪失を「誰にでも起こり得る人生の出来事」として、ともに考える地域づくりに取り組んでいます。
より公益性の高いNPO活動を行っていること	死別や喪失の経験は誰にでも起こり得る人生の出来事です、理解不足により当事者は周囲の何気ない言葉や態度で一層傷つき、孤立感を深めることがあります。さらに医療・福祉・教育の現場では、従事者自身も共感疲労やバーンアウトに陥ることも少なくありません。 当法人は、当事者が安心して思いを語れる場の提供と同時に、支援者への研修や学びの機会を通して支援の質向上と支援者の持続可能性を支えています。 誰もがグリーフを大切に抱えながら生きやすい社会を実現するため、地域住民の一人ひとりがグリーフサポートの担い手となる社会の構築を目指しています。

活発なNPO活動を継続的に行い、当該活動に発展性及び模範性があること	当法人は、令和3年から分かち合いの会を開催する自助グループとして任意団体の活動を開始しました。参加者の声を聞きながら、グリーフへの理解や広がり社会において必要不可欠なことを実感し、令和7年に死別の当事者、医療従事者、教育関係者、労務担当者など多岐に渡りグリーフに関わる人たちとともにNPO法人化をして活動を広げています。 これまでの月例の「分かち合いの会」は当事者同士の運営だったところから、専門職も参画することにより継続性が担保されました。また、医療機関や行政、大学と連携した研修・講演を積み重ね、理解が広がってきました。 啓発週間ではキャンドルナイトを開催し、学生や地域の人たちの参画を得ながら多世代がグリーフについてともに考える機会を作っています。 分かち合いの会も啓発も、将来医療従事者を目指す学生や、すでに医療や支援の現場に携わる人、死別を経験した人、そんな人たちを支えたいと思っている地域の人たち等がともに場を運営しており、年々広がりを持った展開を実現しています。 今後は教育現場での導入や地域ネットワークづくりを進め、喪失からうまれるグリーフを「誰にでも起こり得ること」として、知識や情報をあたりまえに手に取ることのできる風土を育てたいと考えています。
---	--

(注1)この報告書は、団体の活動内容が登録要件を満たしているかを審査するための資料として用い、また、団体登録された場合、寄附を検討する県民への資料として、公開されます。

(注2)枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

(注3)活動の状況等が分かる資料等があれば添付ください。